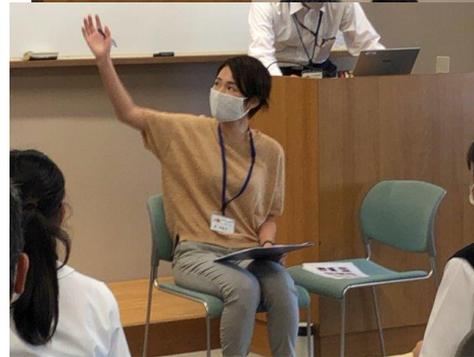
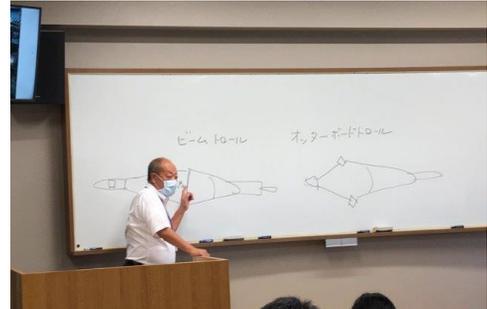


里海を大いに語り合う講座 開催しました！



- 日時 令和2年9月5日（土）14：00～16：00
- 会場 香川大学研究交流棟6階 第一講義室
- 講師 漁師 西谷 明 氏
ファシリテーター 岡 加依子 氏

9月5日（土）、香川大学研究交流棟にて、漁師の西谷明さんを講師に迎え、かがわ里海大学「ファシリテーター実践講座」、「里海プロガイド養成講座（応用）」修了生であり、ラジオDJ、イベントMC等で活躍されている岡加依子さんがファシリテーターとして進行し、「里海を大いに語り合う講座」を開催しました。

講師の西谷さんは、高松市瀬戸内漁業協同組合 副組合長であり、底びき網漁師として、主にエビ、アナゴ、シタビラメ、マコガレイなどを漁獲しています。

はじめに、「漁業協同組合」の概要についてのお話から始まりました。漁船のメンテナンス方法についてや、底びき網の仕組みについてなどの詳しいお話をしていただきました。戦後の食糧難の時代に国策として底びき網漁が始まったことや、瀬戸内海に生息する魚種は浜名湖に次ぐ豊富さであるが、漁獲量は比較的少ないというお話がありました。季節毎に獲れる代表的な魚として、寒い時期は「ヒラメ」、「マコガレイ」、温かい時期は「マダイ」、「タコ」が獲れるそうです。しかし、近年の温暖化により、寒さを好む魚が減ってきて、漁獲できる魚種が偏ってきているというお話もありました。また、「キントキエビ」、「シマゲタ」など、普段聞きなれない名前の魚を例に、おいしいのに市場では値がつかない魚もあるという漁師ならではのお話も聞くことができ、受講者は興味深く聞き入っていました。

